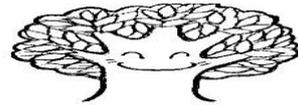


くすのき



～ ご参観ありがとうございました ～

9月13日(金)の授業参観では、「特別の教科 道徳」の授業を行いました。4月30日発行の学校だより2号で、学校教育目標とその達成に向けての7つの実践目標をお伝えしました。その一つ「豊かな心」を育む道徳・人権教育の充実の一端を公開し、保護者の皆様にも道徳教育について、一緒に考えていただく機会としました。

本年度も昨年度と同様に、全学年の学習内容と感想を掲載して、本校の取組を紹介します。この紙面を通じて、身近な道徳・人権に関する会話を増やしていただけたらと願っています。これからも豊かな心を持ち、仲間とともによりよく生きていく子どもの育成に取り組んでいきます。

ご協力をよろしくお願いします。

【 1年「はしのうえの おおかみ」 】

〈学習内容とねらい〉

身近な人たちに温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

〈児童の感想〉

- ベンキョウのやりかたを おしえてあげました。あいてが よろこんでくれて うれしかったです。
- じぶんも やさしくされたら うれしいから、ともだちにも やさしくしたい。

〈保護者の感想〉

- 今回のこのお話から、おおかみが思った気持ちを自分におきかえて考えることが大切だと話しました。誰かに優しくしたり、困っていることに手を差し伸べたりすることで、相手も自分も心が豊かになること、そして最後に文章を付け加えるとしたら、「くまさん本当にありがとう」と言う、感謝の気持ちかもしれないねと問いました。
- 子供本人は、くまが親切にしてくれた事にすごく感動したようです。その後、おおかみが改心したことに喜んでいました。子供本人もいじわるする事が楽しくなってしまう事があると言っていたので、子供にもおおかみのように色々気付いて、さらに周りに感謝できる人になって欲しいと話しました。
- 娘には、おおかみではなく、くま目線で話をしました。優しさは連鎖するという事(最後におおかみが、うさぎに優しくできたように)優しさのタネは、とても大きな影響があるよということを娘に伝えました。

【 2年「何であかんのやろ 」 】

〈学習内容とねらい〉

インターネット端末を介して習得する情報の特徴を理解し、差別を助長するような不適切な言葉があることに気付くとともに、何気なく言った言葉が人を傷つけてしまうことを知り、安易な言葉で誰かを傷つけないよう、人の気持ちを考えて行動する態度を育てる。

〈児童の感想〉

- だれかがおもしろそうにつかっていることばでも、それはまねしてよいことばか、言われた人はどんなはんのうをすることばなのかをよく考えてつかわないといけません。
- わたしは、人をきずつけてしまったときはしっかりあやまろうと思いました。また、きずつけないようにことばには気をつけようと思いました。

〈保護者の感想〉

- You Tube やテレビは先生ではないのでそこで見聞きしたことは正しいこととは限らない。特に You Tube は自分が見たいと思うものを見ているので、そこから得る情報は自分の中に残りやすくなってしまふ。友達だけでなく家族や誰に対しても優しさ、思いやりをもって接する気持ちを忘れてしまふと、「言葉」というナイフで相手の心を傷つけてしまふ。このことを理解してほしいと話しました。
- 毎日動画を見る中でこの言葉遣いは気になるなという場面が多く、家でも「嫌な気持ちになるからやめてね。」と注意するくらいでした。授業で考えることでなぜだめなのか、相手がどんな気持ちになるのか本人の中で理解できたのではないかと思います。

【 3年「自分を大切に、友だちを大切に」 】

〈学習内容とねらい〉

相手の気持ちを考えながら自分の思いを伝えることの大切さに気づき、自分も相手も大切にしたいコミュニケーション力を身につける。

〈児童の感想〉

- 言い方に気を付けたほうがいいと思いました。あと、ことわるときは、ちゃんと言葉を使ってことわった方がいいと思いました。
- ぼくは、次から自分の気持ちをはっきりやさしくつたえて、友だちをきずつけないようにつたえようと思いました。

〈保護者の感想〉

- 同じ内容でも言い方や表情、声のトーンで相手に与える印象が違うため、相手の気持ちを考えて話そうという話をしました。そのあと、きつい言い方をすることがありましたが、今日の授業の話を出すと反省しており、良い機会になりました。
- 自分の気持ちを伝える時は、やさしい言い方をするようにしたいと思ったようです。トゲトゲ言葉でつたえると、相手もトゲトゲするねと話しました。

【 4年「となりのせき」 】



〈学習内容とねらい〉

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平に接しようとする態度を育てる。

〈児童の感想〉

- 苦手な人といっしょになったとき、「イヤ」とか言ったら、あい手もきずつくし、自分も心残りができるから、そういうことを言うてしまうのは、いけないと思いました。
- ぼくは、たまにいやな人だんと思ってしまうときもあるけど、どんな人でも公平にせつすることができるようになりたいです。また、「こんな人だから」などを見た目で判断せず、遊んだりできる人になりたいです。

〈保護者の感想〉

- 総合で学んでいることを交えながら、「平等」「公平」について、改めて考えることができました。見た目や性別、性格など、それぞれに良いところがあると思うので、それに気付けるような人になってほしい。そのためには、差をつけず、同じように接することが大切だと親子で学べたと思います。このことに気付くこともできてよかったと思います。
- 大人になってついてもついても回る課題だと思いました。素直ゆえに相手を傷つけてしまう事もあるし、我慢する事で、自分がしんどくなってしまう事もある。今後、集団生活をしていく中で、思いやりや協調性などたくさん学んでいってほしいなと思います。“自分がされたり、言われたりしたらいやな事”は相手にもしない。を念頭に置いて日々成長していってこれたらいいなと思います。

【 5年「どうだろう？私たちの生活」 】

〈学習内容とねらい〉

- 自分の権利について知ると同時に、自分と同じように周りの人も権利をもっていることに気づき、互いに尊重し合う学級をつくらうとする態度を養う。

〈児童の感想〉

- 友だちの「自分らしさ」を大切に、女らしさや男らしいという言葉できるだけ使わない。理由はその話で傷つく人もいるから。
- 障害のある子、ない子関係なく、遊んだり発言できたりすることを大切にしていきたいです。

〈保護者の感想〉

- 親世代の私たちの頃は、男、女でいろいろとわけられていたように思います。今では、制服や髪形なども選択ができるようになったり、自由に意見を述べられるようになったり、自由になった子ども達が個人を尊重し、すくすくと成長していけたらいいなと思います。
- 家では誰に対しても優しく接し、相手のことを大切にすることが大事だと話しました。子どもにとって最も良いこと幸せなことを大切にしなければいけないと改めて思いました。

【 6年「自分らしさが大切にされる社会とは」 】

〈学習内容とねらい〉

- ・性のあり方は多様であることを知り、LGBTQ 等当事者の思いを共感的に理解する。
- ・一人一人の「自分らしさ」を大切にしようことができるために、何ができるかを考える。

〈児童の感想〉

- ・私は、相手の気持ちを尊重し合うことが大切だと思いました。なぜなら、相手を尊重し合うと、「リオ」みたいに何年も悩んでいる人や「男」と決めつけられて苦しんでいる人が減って、みんなが気持ちよく日常を過ごせるなど思ったからです。
- ・私は（自分らしさが大切にされる社会とは）ありのままの自分が認められる社会だと思います。そうするために、なやみを相談できる友達をつくるのが大切です。自分だけでなやみをかかえず、友達に相談することで、一人一人の毎日が楽しくなったらいいと思います。

〈保護者の感想〉

- ・自分らしく生きる。簡単なようで難しい。困った時、何かをはきだしたい時、我が子にも安心して自分の気持ちを話せる誰かを見つけてほしい。その誰かに親である私もなりたい。
- ・私達の頃には、決めつけや当たり前と思い込みやりすごしてきたことが多くありました。今は自分の意志で選択したり、好みや違いも個性として自由に伸ばせる新しい時代だと改めて思いました。学ぶ機会や情報を得ることに恵まれているからこそ、「こんなことがあるんだ」で終わらず、関心をもって行動にうつすきっかけにしてほしいと願います。

【 くすのき「ついていかないよ」 】

〈学習内容とねらい〉

- ・知らない人に声をかけられた時の対処の仕方を考え、自分の身を守るには、どのように行動したらよいかがわかる。

〈児童の感想〉

- ・私は、ふしん者がこわいということが分かりました。もし、自分が本当にさらわれそうになったら、今日のことを思い出して、逃げようと思います。「いやだ!」「やめて!」と言って逃げます。
- ・ふしん者に会ったら、すぐに逃げるのと、大声を出すことを心がけようと思いました。「ついていかない」「車に乗らない」「あとで家族やけいさつに知らせる」がだいじだと分かりました。

〈保護者の感想〉

- ・家庭では、「自分は絶対大丈夫と思わないこと。知らない人で、怪しいなと自分の勘で感じた時は、相手から離れること」をこれからも伝え続けていきたいと思いました。その良いきっかけになった参観でした。
- ・不審者が名札を見て名前を呼んできたり、「お母さんの知り合いで…」といった嘘をついてきたりと具体的な事例があって、とても分かりやすいと思いました。家でも時々、話し合っ、防犯意識を高めたと思います。

～ アメリカインディアンの教えから ～

批判ばかり受けて育った子は 非難ばかりします
敵意に満ちたなかで育った子は 誰とでも戦います
ひやかしを受けて育った子は はにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子は いつも悪いことをしているような気持ちになります
心が寛大な人のなかで育った子は がまん強くなります
子どもたちは こうして生き方を学びます
励ましを受けて育った子は 自信を持ちます
ほめられるなかで育った子は いつも感謝することを知ります
公明正大ななかで育った子は 正義心を持ちます
思いやりのあるなかで育った子は 信仰心を持ちます
人に認めてもらえるなかで育った子は 自分を大事にします
仲間の愛のなかで育った子は 世界に愛をみつけます



この詩は家庭教育学者のドロシー・ロー・ノルトが「アメリカインディアンの教え」として1954年に発表したものです。日本では1990年に紹介され、ラジオや書籍、そして現在はSNSなどに掲載されており、子育てに悩む母親たちを中心に注目を浴びているようです。

道徳、人権を考える機会にといい、ご紹介しました。